

経営情報論		講義	教授 樽井 勇之
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、経営・経済コースの選択必修科目	科目ナンバリング	23201201

1. 授業のねらい・概要

社会は、農耕社会から工業社会を経て情報社会に変化し、Society5.0 という新しい社会に向かっている。経営情報論ではデータを使って問題解決をするためのデータサイエンスに焦点をあてる。データサイエンスは、コンピュータの発展に伴い大量のデータ処理が可能になったことにより、統計や情報などの手法や知識を活用して、大規模なデータセットから問題解決に必要な知見を引き出す分野である。

本講義では、「情報社会とコンピュータ」で基礎を学んだあとの応用分野（デジタルビジネス）を学ぶ。デジタルビジネスとは、主にデータをビジネスに利活用する新しい分野のことである。企業が提供する新しいサービスの利用や、企業が収集したデータの利活用について学習する。具体的には、ビッグデータの収集・蓄積・活用や、観光における情報化やデータの活用、医療における情報化やデータの活用についても紹介する。

本科目は、文科省の数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）の知識全般を身に付けることができる。

2. 授業の進め方

- ・講義中心に進めていく。
- ・理解を深めるために定期的に課題を出題する。
- ・コンピュータ教室を利用することもある。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. デジタルトランスフォーメーション
2. ハードウェア	10. e コマースとデータ活用
3. ソフトウェア	11. ビッグデータの収集・蓄積・活用
4. 第4次産業革命	12. 観光における情報化
5. 統計とコミュニケーション	13. 観光データの活用
6. 自然言語処理	14. 医療における情報化
7. データの標準化と予測	15. 医療データの活用
8. データの処理と可視化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

企業が利用する情報システムにおける人工知能（AI）活用や企業が収集したデータ活用など、インターネットや教科書で調べてみること。（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題を出題する際にはヒントを与える。
- ・次回の授業の冒頭で模範解答を説明する。
- ・定期試験の際には、解答状況をコメントする。

6. 授業における学修の到達目標

データサイエンス応用分野について理解し、ビジネスの現場や日常生活で積極的に活用できる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の内容（50%）、定期試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書：「新入生のためのデータサイエンス入門」，共立出版，2023 年

9. 受講上の留意事項

- ・身近にある AI を搭載したシステムやサービスについて常に意識を持つこと。
- ・データ活用についても，どのような商品やサービスで活用しているのかを調べてみること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。